

4. 米墨間国際分業関係の研究

イ. 調査の目的

オフショアリングとはモノやサービスの生産・調達を企業の本国のみならず海外でも行うことをいい、米国では多国籍企業を中心に長い歴史を持つ。メキシコは米国のオフショアリング先として 1960 年代のマキラドーラ制度創設以来主要な地位を占めてきているが、近年米国の商品輸入市場では中国との競合が激化する一方、メキシコシティーやモンテレー、グアダハラ等地域は IT サービスのオフショアリング地域として勃興しつつあるという動きも見られる。これらの動きについては、米国に近接するメキシコ等へのオフショアリングという企業のニアショア戦略やメキシコの産業競争力、メキシコの産業クラスターの世界における位置づけの変化、などの要因を分析する必要がある。

ロ. 調査結果の概要

平成 20 年度における調査事業のテーマの一つに「米国・メキシコ間国際分業関係」を取り上げた。メキシコにとって、米国との国際分業を構築する業種が重要であるという観点から、IT 産業と航空機産業を取り上げた。また、メキシコ産業が米国市場における国際競争力を保持するためには、中国との競合対策が喫緊の課題であることに鑑みて、米国市場における中国商品との競合について現状と見通しにも言及した。

次に本報告書の各章の要約を紹介する。

第 1 章 「知識経済、クラスター、バリュー・チェーン」

世界経済における知識経済の重要性が高まっている状況に対応すべく、メキシコでは情報通信技術 (ICT) 関連の産業が成長戦略を担う分野として重視されている。本章ではメキシコの知識経済の現状およびクラスター発展等の世界における位置づけと、知識経済を生産面で支えるクラスターの主要アクターである EMS について主要企業の動向を取り上げている。また、メキシコの垂直分業比率を投入産出表を用いて算出し、中国等と比較している。

第 2 章 「ニアショアリングとしてのメキシコ IT サービス産業」

ニアショアリングとは、IT サービスの供給先に対する近接性 (地理的、時間的、文化的) を活かし、顧客との緊密なコミュニケーションが必要となる特殊なソフト・システム開発とそれに関連する業務へと特化することで、米国市場におけるインド・中国とのグローバル競争を回避し、そのニッチな市場に活路を見出す戦略である。これについては米国商務省の統計を用いて、米国の IT サービス輸入におけるメキシコの位置を確認している。なお、筆者は現地調査を行っており、その知見を踏まえて同章を執筆した。

第3章 「メキシコ航空機産業の国際分業の現状」

メキシコ政府は ICT 産業と並んで、航空機産業の育成にも着手している。06 年にはカナダからボンバルディア社が進出した。また、航空機関連の部品メーカーも進出している。本章ではメキシコの航空機組立て産業が発展する背景として地理的な近接性に加えて NAFTA（北米自由貿易協定）等による北米市場における競争条件の優位性、メキシコ政府の関連施策を指摘している。メキシコの航空機・同部品の主要な輸出先は米国であることから、メキシコのこれらの関連産業も北米における拠点となると考えられる。

第4章 「メキシコの対外経済関係における中国」

開発途上国としては賃金水準が高くなったメキシコでは、低賃金労働に依存する必要のないいわゆる「ハイテク商品」の輸出拡大が求められる。しかし、米国を主要な輸出市場とするメキシコと中国はハイテク分野においても競合商品が増えている。中国はメキシコを上回る供給能力によって、米国市場でシェアを拡大している。メキシコは対中貿易でも入超傾向が続き、内外で中国からの輸出攻勢に直面している。

第5章 「米国市場におけるメキシコ製品の競争力と特徴」

：自動車部品を中心とした動向

米国企業から見た中国とメキシコの類似点は、両国が共に米国企業の重要な生産拠点となっていることである。これが米国市場を巡る中国とメキシコの競合を、引き起こす要因にもなっている。米国での競合分野ではメキシコが優勢だった自動車部品でも中国が追い上げているが、メキシコは基幹部品を含む幅広い製品で優位性を示しており中国と異なるパターンを示している。